

同窓会報

(第48号)

発行: 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長 鈴木一郎
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551
印刷: 有限会社 プリントピア
TEL. 043-233-9671

ご挨拶



同窓会長 鈴木一郎
(昭和35年卒)

千葉高同窓会員の皆さま、ご健勝にて新年をお迎えの事と思います。

日頃から同窓会事業にはご協力ご支援くださりありがとうございます。平成30年、日本列島は死者100人以上を出した西日本豪雨・土砂災害、そしてやはり多くの犠牲者を出した北海道胆振東部地震とまさに災害列島の年になってしまいました。千葉高卒業生は全国で活躍されていますので、被災された方もおられるのではないかと心配しています。幸い千葉県は台風の被害も少なく、こんなに何もな

くて良いのかと思えるほどでしたが、災害はいっ襲って来るかもしれない。日頃の備えがあらためて必要と考えさせられました。

あの3・11東日本大震災について昨日のように思い出します。丁度あの日、平成23年3月11日は千葉県立千葉中学校第一期生の卒業式当日でした。交通機関がマヒし、たくさん生徒父兄が学校で一夜を過ごすことになり、一期生にとって、とても思い出深い卒業式になりました。

それから7年が経ち、その子たちも大学卒業の歳になり、県立千葉中学校は創立10周年を迎えました。そして平成30年11月

17日に千葉中創立10周年記念行事が、千葉高の講堂で開催され、同窓会からは私のほかに、林副会長、阿佐事務局長、沢田茂君が参加しました。当日は記念式典に続き、生徒が中心になって企画した講演会、シンポジウムそして日頃の練習の成果を発表した合唱の部と、質素ながらも、なかなか中身のある立派な記念行事でした。同窓会としてはこの記念事業費に100万円を計上していましたが、学校からの要請で、記念事業費用のほかに、残りを海外留学への奨学援助基金として使われることになりましたのでご報告します。

昨年の夏の暑さも異常でした。気象庁は9月3日、「東日本史上最も暑い夏」と発表しましたが、そんな発表を待たずともこの夏は猛暑日が続き、病院にはたくさん熱中症患者が搬送されていました。ある病院ではエアコンが壊れ、高齢の複数の

入院患者が死亡したという悲惨なニュースもありました。その暑さの最中、千葉高佐藤校長から部活控室が異常な暑さで、生徒が心配だと緊急避難的な要請があり、同窓会としてエアコンを寄贈させていただきました。その後政府も学校にエアコンをつけるよう通達を出したようですが、部活に励む千葉高の生徒が熱中症で搬送騒ぎになる前の迅速適切な判断だったと思っています。

さて同窓会員数は平成29年卒の318名の新人を加え会員総数は37、264名になりました。大変な数ですが、すべてデーターベースに入力され、これも年々改良されて大分使い勝手が良くなり、同期会、各地葛城会、そして総会のご案内などにも利用されているようです。このデーターベースを基に同窓会報も約6500部が会員に届けられました。編集にあたる千葉高の先生方や事務局のご苦勞で、会報も年々充実され、なかなか評判がよさそうです。

47号会報に掲載された日立葛城会の写真に、ご自分のご子息が載っていたと話された先輩もおられました。私の拙稿で宮原立太郎(明治11年卒)を取り上げ

会報第48号 もくじ

ご挨拶……………	会長 鈴木一郎	1
校長報告……………	学校長 佐藤 宰	2
同窓会報によせて……………	葛の会会長 永田忠以	3
事務局近況……………	事務局長 阿佐幸雄	3
会報寄付者一覧……………		4
支部だより……………		5
OB会だより……………		9
学年短信……………		12
成人記念同期会……………		19
葛城人脈④……………	角田陽一郎さん 加藤 昌治さん	22
同窓会支援事業……………		24
葛城だより・編集後記……………		24

ましたが、孫になる宮原忍さん(昭和38年卒)から「丁寧なお手紙を頂戴しました。それによると立太郎氏は祖父、お父様は宮原純氏(大正15年卒)、そしてお子さんの稲田恵美さん(平成4年卒)」と、宮原家は4代にわたる千葉高一家という楽しいお話も聞きました。

会報の印刷、発送費用などの事務費用としてのご寄付も順調に集まっていますので、今年はさらに増刷し、より多くの方に会報が届いたら良いなと思っています。会報を通して現在の学校の状況を知り、部活仲間や級友の消息を知り、そこでまた新たな絆が生まれれば素晴らしい事

校長報告



校長 佐藤 宰

です。
今年は陛下の生前退位によって改元の日程が決まっています。激動の昭和、平和の願いを込めた平成の時代も終わり、これからどんな年号になるのか気

になるところですが、国の内外の平和を願う気持ちは、国民の共通の願いでしょう。そんな願いを込めた親しみ易い年号になればと思います。新元号を迎えたいと思います。

千葉高校同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動にご支援を頂いておりますことに感謝申し上げます。

平成30年も、可能な限り支部等の会合に参加をさせてもらい、多くの先輩方からお話を聞き出すことが出来ました。なかでも、戦後、旧制中学校から新制中学校、新制高等学校へと大きく変わった時期のお話では、当時の生徒の戸惑いの様子が伝わってくるなど、大変興味深く

聞かせていただきました。どの会合でも、暖かく迎えて頂き、かつ貴重なお話をお聞きすることができました。改めてお礼を申し上げます。

平成30年1月には、高校を卒業し2年目を迎える若手の同窓生の皆さんの同期会にお招きをいただきました。250名の同期生が集まり、進路先での現況を話すことはもちろんのこと、今後の目標を熱く語るなど、同期生にとって本当に充実した会合となりました。10年後に再会することを楽しみにしていただき、全国には活動を活発にすることに苦労している同窓会が多い中で、このような素晴らしい、若い同窓生の集まりが開催で

きることは、千葉高校同窓会にとって、大変有意義なものであると思います。

さて、平成30年11月17日に、千葉中学校創立十周年記念式典を行いました。本校講堂を会場とし、第一部の記念式典、第二部の記念講演、第三部の在校生による合唱祭を行い、盛会の内に終えることが出来ました。同窓会からも、鈴木会長、林副会長、事務局の阿佐様、沢田様に参加

をしていただきました。また、この記念式典を進めるにあたり同窓会から多くのご援助をいただきました。これらのことに

対し、改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

また、創立十周年記念事業として、本校の中学生、高校生、海外研修に対する給付型奨学金制度の創設を計画しています。この事業も同窓会からいただいた援助を役立てたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、今年度も、「総合的な学習の時間」等において、各界で活躍している先輩をお招きして、最新の事情や進路上の心構えについて講演をいただきました。

6月の1年総合学習・外部講師講演会では、竹原教博様(昭51卒)から電子コミックを中心としたインターネットビジネスに関するお話をいただきました。その際、同年の奥田桂子様、川添公貴様、木村善子様、黒川透様、須藤輝男様、竹内桃子様にもおいでいただきました。

10月の2年総合学習・外部講師講演会では、岡崎真様(平元卒)、小松由佳様(昭63卒)、松永正弘様(平元卒)、中川篤史様(平2卒)、平林亮子様(平6卒)、野村竜一様(平7卒)、佐々木俊介様(平12卒)、寶川絃司様(平13卒)に、それぞれ分科会に分かれて講師をお願いいたしました。

また、「大学の先生による模擬授業」にも協力をいただきました。11月には柳原大様(昭57卒)により、運動の学習・記憶の神経機構と運動による脳の健康について講義を実施していただきました。

他にも、間接的に本校生徒のために協力をしていただいた先輩方もいらっしゃいます。この場を借りてお礼申し上げます。また、来年度も、引き続き本校生徒の教育活動の充実のために

同窓会の皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。

ところで、本校には美術館が設置されており、多くの美術品が納められています。これまで、伊藤敏隆名誉館長や関係者の皆様のご努力により、管理されておりました。しかしながら、開館から40年が経ち、収納されている美術品の数が多く、運営方法や収納品の管理に課題も出てまいりました。

今後、美術館の運営等について、関係者の方々と協議をしたいと思っております。それに伴い、収納されている美術品のうち、卒業生の作品について、返却を希望される方へ返却することを考えております。詳細については、今後お知らせいたしますが、現時点で、返却を希望される方やご家族がいらっしゃいましたら、本校までご連絡ください。

本校の生徒が文武にわたり日々活動できるのも、同窓会の皆様の多大なご支援があるからこそだと思います。校長として、本校の教育活動の更なる発展を目指し、精一杯努力をしてまいります。同窓生の皆様には、今後とも本校の教育に対するご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会報に寄せて

葛の花会会長 永田 忠以
(昭和37年定卒)

本年は今上陛下御退位を迎え、平成最後の年となります。

戦時生まれの私にとって昭和は戦後の激動と経済成長を目の当たりにする時代であり、平成を振り返れば、バブルの崩壊、自然破壊による異常気象、特に近年では地震、水害、火山噴火などの天災が各地で起こり、多くの方々が被災されました。

平成という時代も激動であったのかもしれない。

その中で天皇皇后両陛下が、戦時中激戦であった各地に御慰問に行かれるお姿、また国内被災地では被災者に寄り添われ、お励まし続けられるお姿は、多くの国民の心を打つものであったと思います。

新たな世を迎えるにあたり、東京オリンピックも間近に控え、日本がまた一歩良き国へと発展することを願う次第であります。

さて私も千葉高を卒業して

半世紀以上が経とうとしています。卒業後のかかりとして、

まず、定時制柔道部恩師西林敬武先生を中心に十日会を設立、

また美術部恩師伊藤隆月先生を中心に記念絵画展の開催などをして参りました。特に十日会は、

現在の葛の花会へと発展し、定時制の同窓会組織として今日まで活動を続けております。そして創立百周年の時には、名簿の作成、祝賀会などの記念事業にも携わりました。今では葛の花会をはじめ、千葉葛城会、船橋葛城会、同期会である千一夜会において多くの卒業生の方々と親睦を持たせていただいております。

昨年は6月9日にブラザ菜の花に於いて、佐藤幸校長、鈴木一郎同窓会長、阿佐幸雄事務局長、また旧定時制職員の方3名をお迎えして賑々しく葛の花会を開催いたしました。

この会の事務局として志賀吉郎、三井芳夫両名の頑張りには

感謝申し上げます。本年も6月の第二土曜日に開催を予定しています。多くの方々のご参加を願うところであります。

昭和、平成と長い時間、母校を見守ってまいりました。母校

の発展の姿、定時制閉課程の姿、中高一貫の姿、その姿は様々です。新しき世を迎える現在、これらの母校が見せる姿をこれからも見守り続けたいと思います。

同窓会事務局の近況報告

同窓会事務局局長 阿佐 幸雄
(昭和35年卒)

昨年9月に千葉商工会議所会頭の石井俊昭さん(昭36卒)が逝去されました。また、年が明けた1月12日に市原悦子さん(昭29卒)が逝去されました。共に同窓会の事業に対しご協力いただき、125周年事業やグラウンド整備事業の折には、多額のご寄付をして下さいました。誠に惜しい方々を失いました。合掌

さて「同窓会員が集える事務局室の整備」は、13年前に事務局長に就任以来私の課題でした。同窓会を支えてくれている校内の同窓の先生や、母校を訪れる同窓の方々に、居場所を確保することと同窓会関係資料の散逸を防ぐことにあります。

事務局室の整備状況

平成25年に当時の高岡校長先生の計らいで、記念館(美術館)の中に同窓会事務局室の設置許可を得ることができました。以来少しずつですが、事務局室の整備を行ってきました。

平成29年までに一応事務局の機能をもった部屋になりましたが、昨30年には部屋の半分以上を占めていた、大きな木製テーブルと木製書棚、古いスチールの書棚などを片付けてスペース

名簿データベースの現状

平成28年12月に完成した同窓会名簿データベース(以下DB)は、29年より試用を開始しましたが、会長が書かれているように現在37264名が登録されております。昨年は、平成30年



卒(第70期生)の名簿の取り込み
他、各種の改修を行いました。
当初DBは、同窓会総会や各
年度の同期会への対応に焦点を
当てて作成しましたが、その後、
地域葛城会支援のため、複数住
所からの検索・抽出が出来るよ
うになりました。今回も、検索
項目を細分化するなど将来に備
えた改定を行いました。

名簿委員のご推薦を

今年度から各年度の信頼でき
る管理者にIDとPWを発行し、
そのIDとPWで年度の名簿へ
へのアクセスを許可します。

年度の名簿管理者(名簿委員)
には、同窓会の名簿委員長が各
自と面談のうえ、DBの主旨と
マニュアルを理解していただいた
上で名簿委員に任命します。

名簿委員は、DBの同期名簿
データの修正作業を行います。が、
DBは個人情報情報の塊ですから、
常にセキュリティに留意すること
が求められます。

名簿委員は、同期会案内の発
送データのダウンロードやメー
ルの発信を行うことができます。

会報配布と寄付状況

かつて会報は、同窓会総会や地域葛城会
や在校生を通じた配布などが主でしたが、
平成28年から鈴木会長の肝いりで個別配布
をはじめました。会報送付の折に寄付依頼
を行いました。多くの方々のご賛同を頂
き、多額のご寄付を頂いています。

ご寄付のお陰で、発行部数や配布数も増
えました。また、多くの方々の目に触れるこ
とで内容も充実しています。

会報の発行部数と個別配布数、寄付人数
と寄付金額は下表のように推移しています。

会報寄付者一覧

1万円以上の寄付者名は太文字

(敬称略・卒年順)

【昭和24年】 岡野 正義 安田 敬一	【昭和25年】 朝比奈 浩 石毛 敬祐	【昭和26年】 秋庭 尚正 小西 進	【昭和27年】 石崎 満 白井 栄治	【昭和28年】 渡辺 誠治 佐久間 宏	【昭和29年】 石橋 敏夫 市川 雅夫	【昭和30年】 山下 庸明 赤塚 光朗	【昭和31年】 深沢 規夫
---------------------------	---------------------------	--------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	------------------

【昭和32年】 高澤 正 市川 豪一	【昭和33年】 磯村 義行 片岡 善蔵	【昭和34年】 石井 豊信 伊藤 貞雄	【昭和35年】 米田 治 安藤 修	【昭和36年】 片岡 博 北島 史博	【昭和37年】 大野 岑 押尾 隆	【昭和38年】 堀野 雅澄 間山 素行	【昭和39年】 石渡 堅一 宮原 忍郎	【昭和40年】 山崎 幸男 矢野 博	【昭和41年】 矢口 讓二 土肥 哲英	【昭和42年】 鶴岡 国英 土岐 哲英	【昭和43年】 菅谷 公治 上平 隆治	【昭和44年】 加藤 健一 市東 宏善	【昭和45年】 石井 善一 荒井 基薫	【昭和46年】 赤桐 毅一 渡辺 俊雄	【昭和47年】 深田 映治 宮間 治	【昭和48年】 藤倉 清治 藤野 清治	【昭和49年】 鈴木 新一 関根 新一	【昭和50年】 高倉 史朗 武田 浩一	【昭和51年】 有村 正彦 泉 和光	【昭和52年】 小宮 敏彦 上原 和彦	【昭和53年】 種谷 信彦 徳島 陽子	【昭和54年】 宮下 潔二 山田 秀彦	【昭和55年】 湯川 昌彦 岸高 清	【昭和56年】 平岡 映子 藤田 孝文	【昭和57年】 矢沢 孝文 森口 浩	【昭和58年】 大塚 眞由美 倉澤 由和	【昭和59年】 南陽 一郎 藤縄 和代	【昭和60年】 西山 恒夫 西山 恒夫	【昭和61年】 長谷川 恵子 長谷川 康行	【昭和62年】 羽田 達夫 松浦 健夫	【昭和63年】 八尾 邦雄 山口 悦子	【昭和64年】 吉田 悦子 池上 爲一	【昭和65年】 竹澤 容子 長谷川 和貴	【昭和66年】 梅田 公利 多部 美佐恵	【昭和67年】 今井 菜理 吉本 一紀	【昭和68年】 戸澤 庸子 橋本 幹彦	【昭和69年】 小口 学 熊埜 御堂章	【昭和70年】 白井 護 甲斐 聡	【昭和71年】 鈴木 石文 永野 伸一	【昭和72年】 小栗 新 倉持 宏明	【昭和73年】 藤本 美和 横田 淳	【昭和74年】 三山 正信 石原 佐智子	【昭和75年】 依田 拓之 小林 靖茂	【昭和76年】 西村 克樹 小田 恵美	【昭和77年】 宮原 啓史 中田 弥生	【昭和78年】 稲田 史生 多部 美佐恵	【昭和79年】 吉本 一紀 戸澤 庸子	【昭和80年】 橋本 幹彦
--------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------	--------------------------	-------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	-----------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------	---------------------------	--------------------------	--------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------	---------------------------	------------------

■ 同窓会報の個別配布・寄付状況

年 度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
会報号数	第47号	第46号	第45号
発行部数	6,500	6,500	6,000
個別配布数	2,610	1,500	1,500
寄付人数	192	105	166
寄付金額	1,122,000	737,000	1,071,000

※ 平成31年度の第48号は、7,500部発行、個別3,500部の予定

支部だより

☆長生茂原葛城会

会長 加瀬 元
(昭和36年卒)

人生は一度しかない、例年の通り、平成30年10月の第1土曜日(6日)茂原の一茂で第63回長生茂原葛城会が開催されました。

今年は平成最後の年となり、来年4月30日現在の平成天皇が退位され、翌5月1日、新天皇が即位されます。本会の穴倉会長も平成天皇にあやかって、一年前倒しではありますが、退位されることになりました。そこで私が後継の会長に指名され、強く辞退申し上げたのですが、かなわず、御引き受ける事になりました。私は平成5年の第20回から長生茂原葛城会に参加させて頂いております。年々参加者が減ってきて、さみしい限りではありますが、今年もやはり11名の参加でした。同窓会本部から鈴木一郎会長、阿佐事務局長、現場の佐藤宰校長の御臨席を頂きました。各挨拶の後、今年のノーベル賞受賞で話題になっているオプジーボについて菅原会員からお話を頂きました。その後皆様で学生時代の思い出や現在の様子等の話題に花を

咲かせ、楽しい時間を過ごしました。今年はいつもソングリーダーの藤井会員が欠席でしたので少しさみしかったのですが、最後に校歌を合唱し、散会となりました。来年も又、元気で再会できる事を祈念しています。



☆東京葛城会

事務局長 桑野雄一郎
(昭和60年卒)

去る平成30年10月12日(金)に、東京葛城会の第59回総会が開催されました。今年は急用のため残念ながら鈴木一郎同窓会長はご欠席されましたが、佐藤宰学校長、教員OBの越川芳雄先生、鵜田忠雄先生、坂本和敬先生をはじめと

する豪華な来賓をお迎えすることができました。新たな役員体制となつて最初の総会でしたが、つつがなく執り行われました。総会に引き続き懇親会が開催され、出席者数は100名に迫る大盛會となりました。今年は、楽書家今泉岐葉さんが、ピアノ奏者武井典子さんのピアノ生演奏に合わせた書道パフォーマンスを行い、各分野で華々しい活躍をしている千葉高出身者を「百花繚乱」という言葉で表現されました。その後、リケジョ出身の料理研究家・国際

中医師の熊谷真由美さん、離島を旅するエッセイストのカベルナリア吉田さん、南極・北極を何度も訪れた新聞記者の中山由美さんによるミニトークショーが行われました。右にご紹介した方々はいずれも今年の幹事学年である昭和59卒の卒業生です。多彩な分野で活躍している様子は正に「百花繚乱」という言葉にふさわしいものでした。最後に旧制千葉中、千葉高の校歌を武井さんの伴奏に合わせて合唱しました。ピアノの生演奏と共に歌う校歌はまた格別のものでした。平成最後の会でしたが、今後も

東京葛城会が末永く同窓の架け橋となることを願います。

☆東金葛城会

幹事 岸本雅邦
(昭和39年卒)

第40回東金葛城会の総会は、平成30年4月22日東金の割烹志津本で16名の出席をいただき、来賓として鈴木一郎同窓会長、佐藤宰学校長をお迎えし、和やかな雰囲気の中で開催いたしました。

ご来賓の方々より学校同窓会の状況を、また会員の皆様から近況報告をうかがい、楽しい思い出話に花を咲かすことが出来ました。また当日はゴルフコンペを開催し親睦にとてもなりました。

会の会長は次年度より33年卒の佐久間邁氏にお願いすることになりました。木村卓様永い間の会長職ご苦勞様でした。会員の活躍の報告ですが39年卒の中里重幸君が公益財団法人東金文化スポーツ振興財団の理事長に就任致しました。今後のご活躍を期待します。



☆成田葛城会

会長 松田徹之

(昭和39年卒)

第16回成田葛城会を平成30年11月18日に成田市内の「ひかたや第二支店」にて開催いたしました。

同窓会から阿佐幸雄事務局長、高等学校からは岩瀬博行教頭にご臨席を賜りました。阿佐事務局長からは同窓会事務局の近況報告をお話いただき、岩瀬教頭からは学校の状況及び学生の学業や部活動での活躍等についてお話いただきました。同窓会・学校ともに色々とご努力をされていることに会員一同納得をいたしました。また、佐倉葛城会からは山田敏夫副会長にご出席をいただき、同窓会名簿データベースを活用して会員、特に若い会員を増やしていきたい旨などお話を伺いました。

当会会員の参加は13名とこれまで一番少ない参加数ではありましたが、新たに参加してくれた方や久しぶりに参加してくれた方もいて、前述しましたようにご来賓の方々のお話を賜り、また、学生時代の思い出や会員相互の近況報告などに花が咲き、楽しい一時を過ごすことができました。今回の成田葛城会の開催に当たってもご家族の方からの計報のお知らせや病気で参加できない

旨の返信があり、地域の葛城会を存続させていくためには、佐倉葛城会からもお話がありました。若い会員の確保の必要性を強く感じているところであります。



☆千葉葛城会

会長 佐川信夫

(昭和三十三年卒)

30年度の本会は、6月15日の役員会を経て、7月21日ポートプラザにて夕刻から開催、昨年より30名ほど少ない69名の出席者にて開催しました。

今夏は例年になく猛暑が続く7月7日から25日まで連続して



最高気温が30度以上となり、当日は33度、翌々日には37度を越えました。余りの暑さのせいでしょうが、年配の方々の欠席が多くなつてしまつたようです。次回からは開催時期を変更しようかと思ひます。

総会もそこそこに祝宴に入り佐藤校長先生、鈴木同窓会会長のご挨拶を頂き、例年と変わらずアトラクションが始まり、瞬く間に時間が過ぎてしまい、お楽しみ抽選会に移り、今年も事務局の骨折りで種々の景品が出品され一

喜一憂の声に会場は包まれました。

9月20日計報が入りました。千葉葛城会副会長の昭和36年卒の石井俊昭さんが75歳の若さで亡くなり、当会のみならず県内の経済界のリーダーとして県経済界の発展に多大な貢献をされていきましたので、氏を失うことは県民の大きな痛手となりました。千葉商工会議所会頭を始めとして各種団体の役員も数多く引き受け、精力的な活躍をされました。

幅広い要職に就きながらも、彼の開放的、庶民的なお人柄で経営者の相談に親身に乗り、県内中小企業発展にご尽力されました。同窓生の誇りでもあった石井さんを失い痛恨の極みであります。石井さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

合掌

☆船橋葛城会

世話人代表 中山泰正

(昭和42年卒)

第39会船橋葛城会は5月27日日曜、船橋グランドホテルに於いて50名参加のもと開催されました。名物ミニ講座の油井宏子さん(昭47卒)が体調不良のため、急きよ高橋成樹さん(昭62卒)が「ホームページを作ろう。」と題し

て現代社会の最前線のテーマを講義してくれました。又、今回から世話人代表が吉岡賢一(昭35卒)から私、中山に代わりました。2年程は続けるつもりです。

船橋葛城会もう一つの名物企画「アソコへ行ってみよう!」では春は「サイゼリア一号店へ」、秋は「サッポロビール工場と南極観測船しらせ」見学を催し、両企画とも一般会員も参加され趣味を示されたようでした。春のコースは本八幡駅近くの小さな八百屋の2階から始まったサイゼリアの創設者の着眼点と情熱に感動し、又秋のサッポロビール工場での試飲は勿論でしたが、意外と評判が良かったのは南極観測船しらせの艦内見学でした。半分南極へ行つて来た気分を味わえ、見学後「今の千葉中学生に見学させたいね」との話題が出た程です。

さて船橋葛城会は主体性を確立するため、ミニ講座、百人一首を用いた抽選会(特に翌年の会への無料優待券は好評)、身近な散策や見学会等々、又各分野で活躍されている方や次の時代を担う若者を紹介して参りました。「世話人寄れば文殊の知恵」の如く、皆様の生涯のヒントになる企画を提案して参ります。人生は大変だけど、楽しく素晴らしいのだから!

☆佐倉葛城会

会長 山田敏夫

(昭和42年卒)

平成30年(第17回)佐倉葛城会総会・懇親会を11月25日に佐倉市新町の房州屋本店で開催しました。総会には来賓として同窓会の阿佐事務局長、事務局の沢田さん、佐藤校長、成田の岩下幹事長にお越し頂きました。

今回の総会では役員の改選が行われ山田が会長に選任されました。今後とも佐倉で葛城会の活動を活性化したいと考えてお



ります。

懇親会では、恒例となった当会渡辺誠治顧問(昭27卒)によるミニ講演会がありました。今回は「千葉中から千葉高へ激動期の葛城台」と題して、終戦直後の状況をお話し頂きました。中でも千葉軍政部から学生自治会結成の勧告、モデル文案が提示され、生徒自治会(後の生徒会)発足した状況など、体験者ならではの大変興味深い内容でした。

この総会は年に一度の楽しい集まりですが、会員参加者の高齢化が悩みの種です。今後は同窓会本部から提供頂いた佐倉市在住の卒業生データを元に新会員の募集に力を入れたいと考えています。

☆県庁千友会

会長 岡本和貴

(昭和54年卒)

千葉県庁の職域同窓会である千友会は、現在の会員数が230名であり、毎年秋に総会を行っています。

今年度は11月7日、佐藤校長先生、同窓会の鈴木会長、門山代議士、佐渡四街道市長、そして森さん、高梨さん、荒木さんの3名の県庁の先輩にお越しいただき、約60名の参加により、盛会の

うちに終えることができました。

総会では、来賓の方々の温かいお言葉や、ご勇退された先輩からのエール、新入会員の力強い挨拶などが、同窓ならではの絆を感じることができ、平成最後の総会にふさわしく、楽しい時間を共有できました。最後は、恒例である参加者一同の校歌斉唱で締めくくりましたが、youtubeの動画を伴奏に活用するなど、若い世代の積極的な発案があったことは、これからの会の発展が期待でき、来年度の開催が大いに楽しみです。

☆千葉市役所葛城会

会長 小早川雄司

(昭和54年卒)

千葉市役所葛城会の総会・懇親会は、平成30年2月9日、一昨年と同じ会場「カフェダイニングオレンジ」で20人の会員参加のもと開催いたしました。

会は、新役員の選任の後、退職される池上宏さん(昭46卒)、鎗田睦さん(昭51卒)、岡田裕樹さん(平8卒)からこれまでの経験を振り返っていただくとともに、後輩への激励を込めたご挨拶を頂戴しました。

さらに新入会員、吹野智子さん(平21卒)、大沼直樹さん(平25卒)紹介の後、乾杯。



☆るのはな一杯会

(千葉大学医学部)

会長 田邊政裕

(昭和42年卒)

平成30年7月1日、京成ホテルミラマールにて平成30年度のはな一杯会が開催された。会員は、千葉中学校、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千

葉大学医学部及び医学部附属病院に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生であり、卒業生25名、在学中の学生15名が参集した。私、田邊よりの開会挨拶に続き、総会では会則の一部変更、会計報告や今後の運営などを討議しました。

その後、最年長の市川邦男先



生(昭20卒)の乾杯の挨拶があり、懇親会に移りました。

昨年度から、より一層の懇親を深めると共に、先輩諸氏の経験を後輩に伝えていただくことを目的として在学学生が各テーブルを廻って卒業生に質問するワールド・カフェを実施しています。

教室の選び方、専門医や博士号の取得方法、外科と内科の決め方、医師としてのありかたなど活発な意見交換がされ、大変盛況でありました。参加者一同集合写真を撮り、その後閉会いたしました。

☆千葉銀行葛城会

会長 池田知行

(昭和54年卒)

千葉銀行葛城会は今年度も新たに3名の新入会員を迎え、現在、現役会員146名及びOB会員14名総勢160名の会員がおります。平成30年度総会は7月11日(水)京成ホテルミラマールにて開催、50名の会員の皆さまにご出席いただきました。

当日はご来賓として佐藤宰校長先生をはじめ、京成電鉄(株)常務取締役の加藤雅哉さん(昭54卒)、JFEスチール(株)専務執行役員東日本製鉄所長の斉藤輝弘さん(昭54卒)をお迎えしました。また、会の始めにはロンドンから帰任さ

れた高橋秀穂さん(昭57卒)、会の終わりにには香港から帰任された小野雅康さん(昭60卒)が挨拶するなど、世代や職場を離れた幅広い交流の場となりました。

会では、最近の母校の様子を校長先生から詳しくご紹介いただいたほか、ご来賓の皆さまからもご挨拶を頂戴しました。また毎年演奏をお願いしている千葉高校合唱部からは、合唱部員26名(引率・飯田仁志先生、伊藤毅先生、樋口奈々子先生)により、素晴らしい合唱曲も披露していただきました。

最後に、新入会員から自己紹介と決意表明があり、上原和男さん(昭46卒)による激励の言葉の後、参加者一同で校歌を斉唱し、お開きとなりました。

☆清水葛城会(清水建設)

幹事長 那須原和良

(昭和49年卒)

11月7日、東京・銀座で平成30年度の清水葛城会が開かれ、清水建設(株)の現役・OBのメンバー38名のうち18名が参加しました。清水葛城会は平成8年に設立され、一時期活動を休止していたが、10年前に活動を再開し、以後毎年会合を行なっている。

今年の会合には、昨年に引き続き昭和29年ご卒業の石黒(宇



井) 敝大先輩が名古屋からわざわざご出席され、かつて建築現場で鍛えられた(?)大音声で海外旅行などの近況をご報告された。また今回、久し振りに昭和35年ご卒業の田村昭南大先輩も参加され、日本酒片手の懐かしいお話に会場は大いに盛り上がった。他に参加したのは、昭和40年卒の吉田和夫先輩から平成21年卒の白井大悟君まで。仕事の話題や高校時代の話などで、楽しいひと時を過ごした。

来年は、最近ご無沙汰しているOB諸氏にもご連絡し、さらに清

☆葛城建友会

会長 櫛部健夫

(昭和44年卒)

水葛城会を盛り上げていきたい。

11月11日、12日の両日、鳥取県境港市にあり本年7月にリニューアルオープンした、水木しげるロードへの、会員有志による視察旅行を行なった。これは、この度のリニューアルの設計を当会会員の栗原裕君(昭48卒)が代表を務める(有)ユー・プラネットが担当したのが契機となったもので、当会としては初めての県外一



泊視察旅行となった。

境港市のメインストリート約800mにわたる水木しげるロードのリニューアルでは、ゲゲゲの鬼太郎をはじめとした177体の妖怪をテーマごとに再配置してその由来を含めて展示しただけではなく、夜間には様々な照明を駆使して光の空間を演出しており、昼間とはまた違った妖怪たちの凄みとともにどこか温かみも感ずることができた。また栗原君からは、リニューアル設計の意図や狙い、県・市や地元商店街との折衝の苦労など、単なる観光旅行では聞けない話を聞くことができ、大変充実した視察旅行となった。

地元の居酒屋で美味しい魚料理とお酒を堪能した一行(中山泰正・昭42卒、花田順二・昭62卒、宮下賢一・平2卒、栗原、櫛部)は、翌日には松江城から出雲大社へと足を延ばし、山陰の歴史・文化・伝統を学ぶと共に大いに楽しんだ。葛城建友会は、千葉高卒業生なら誰でも会員になれる、楽しい、そしてちょっぴりためになる会です。興味の有る方はホームページをご覧ください(「葛城建友会」で検索できます)、ぜひ例会にお顔出しください。

OB会だより

☆山岳部OB会

会長 中谷和博

(昭和44年卒)

山岳部のOB・OGは二百名を超える規模となりました。現在最高齢は昭和26年卒の久山敬先輩で86歳になりますが元気に登山を続けています。体力差・経験差等により同じ活動をすることは困難な面がありますが、若手は若手なりに、ベテランはベテランなりにグループを作り登山を楽しんでいます。

会は16名の役員が年に数回集まり活動方針を話し合います。仕事を持つ身で集まるのは厳しい時もありますができる範囲で活動しています。



現在、会としての主な活動は三つあります。①OB会会報の発行、②OB会山行の実施、③OB会総会の実施です。

OB会報はOB会総会の案内の返事に記載された近況をOB会報として纏め会員全員に発送しています。

OB会山行は家族・友人の参加も歓迎し山行を楽しみます。

今年度は九人が参加し相模湖近くにある三国山と生藤山の登山を実施しました。新緑の中の登山は爽快でしたが日頃の運動不足を実感させられました。

OB会総会は毎年11月に実施



☆県千葉バレー部OB・OG会

幹事長 枝松宏明

(昭和46年卒)

今年度は、11月10日に千葉三井ガーデンホテルにて創部70周年記念OB・OG総会を開催しました。

総会では新たな体制として会長職、副会長職を設けることとし会則を改定。会長に木之本省治氏(昭和40卒)、副会長に古川光一氏(昭和41卒)を選出。また幹事は70歳定年制とする会則により6名が退任。新たに4名が選任される等、一層の体制強化が図られました。

続く懇親会では江戸寿獅子舞(昭和42年卒山田敏夫氏がリーダー)の披露や出席いただいた現役顧問(渡邊先生、田

しています。今年は現役生を含め42名が参加し一人一人が近況報告を行いました。予定された時間はあっという間に過ぎ参加者全員で記念写真を撮りお開きとなりました。

中先生)、また創部70年の中ほどの時期に10年以上に亘り顧問として面倒を見ていただいた中谷先生からもご挨拶をいただきました。田中先生は今年4月に着任された平成20年卒のバレー部OBであり、OB・OG会として益々の現役支援を、と盛り



上がりました。

本会の活動では、現役支援としてボールの寄贈、大会前に届けることで現役諸君からは「試合でニューボールが使え」と好評です。また、夏合宿の昼食差し入れも喜ばれています。幹事会では「現役支援」「名簿の充実」「ホームページ運営」「現役・OB・OG間交流」等につき意見交換しています。

ホームページには「記念総会」「現役の試合予定や結果」等掲載。OB・OGと連携を図り寄付や住所変更の連絡にも活用。

「県千葉バレー部OB・OG会」(<https://www.kenchiba-volley-obog.net>)にご訪問頂ければ幸いです。

☆自動車部OB会

三宅 茂

(昭和30年卒)

高校を卒業したのが昭和30年、今年は平成になって丁度、節目の30年で千秋会(千葉高文化祭)に卒業以来初めて行ってきました。

高下駄を鳴らして未だ砂利道だった千葉高の坂を登り降りしたのが、ついこの間のことのよう蘇ってきた。しかし、登り切ったところには、正門が昔の

ままに佇んでいたが、その先に建っていた三角屋根をもった玄関の校舎はなく、他校にきたように覚えたのは私だけであろうか。

コンクリート造の校舎沿いに歩いて行くと、懐かしい講堂が見えてきて、漸くホットした。中に入ると当たり前だが、昔のままの雰囲気、薄暗かった室内は蛍光灯に換えられて明るくなったのが印象的だった。講堂で思いつくのが新入生の歓迎会で、2階から上級生にコショウを振り撒くという手荒い歓迎を受けて、1階の後方に着席していた生徒がくさめくしてたのが、つい昨日のように思えた。

帰路に坂を下りながら、坂の下から、当時、自動車部にあった自動三輪車で坂道発進の練習に先輩に怒鳴られつつ、励んだものだった。

☆水泳部OB OG会

葛城水泳会会長 宮下 賢一

(平成2年卒)

平成30年9月1日、復活第3回の葛城水泳会総会が開催されました。軍事教練の一環として母校に造成されたプールで活動を開始して今年で88年、また進



取の精神で県内最初の水球チームを結成してから50年を迎えました。現在は男女とも競泳に一本化していますが、水球で国体準優勝の経歴を持つ福原先生が顧問に就任したことを契機に、歴史と伝統を以て現役生徒を支援すべく、2年前に老若男女が種目垣根を越えて集まる本会が復活しました。

毎年9月第一土曜日は13時「プール集合!」。ゴールデンウィーク明けから十分に日焼けをした現役生徒の中に白い卒業生が混ざり、独特のコントラストが水面に描かれます。競泳では年代別リレーが行われ、全国大会出場経験者が往時の泳ぎを披露し現役生を圧倒する場面もありました。水球では、福原先生が用意された水球用帽子を着用し、水深も嵩上げて本格的な雰囲気演出。現役生も水の中でボールを扱う楽しさを体験しました。その後、会場を移して二次会。こちらからの参加も多くなりました。福原先生から現役生の活動報告をいただき、2年後の創部90周年に向け現役生を支援し盛上げていくことを確認しました。

☆ラグビー部OB会

OB会会長 長 英連

(昭和52年卒)

2018年3月17日、ホテルプラザ菜の花にてラグビー部OB会総会・懇親会が開催されました。この総会・懇親会は2009年のOB会の再興と保護者の発足以来、ラグビー部の現役、保護者、OB・OGが一堂に集う場になっています。



OB会の目的の第一番は、県立千葉高校の文武両道を体現するラグビー部現役に物心両面の支援継続であり、第二にOB相互の交流と考えています。新入部員の勧誘活動支援に始まり、4人制弁当箱の贈呈、グラウンドでの練習参加等々は継続して実施しています。

前々回同窓会会報で、還暦を迎えたOB同期の皆さんに「赤いラグビー部ロゴ入り赤いポロシャツ」を贈呈することを報告し、OB会の伝統行事になる予感を紹介しました。

今回は第4代、昭和51年3月卒の皆さんが対象でした。小生の1年先輩であり、今なお、なにかと頭の上からぬ皆さんへの贈呈は感慨深いものがありました。加えて、第2代の未贈呈の先輩にも遅ればせながらお渡しすることもできました。幅広い年代が集まれるのは同窓会と同じですが、濃厚な時間を過ごしてラグビー部への思いは、格別なものがあります。

これからもOBのネット



☆サッカー部OB会

幹事 山越 裕
(昭和43年卒)

ワークで得られる最新の取り組みで、現役支援を続けてまいります。

昨年、平成30年は長年サッカー顧問・監督を務められた二人の恩師が相次いで亡くなられ、古参のサッカー部OBにとって忘れられない悲しく残念な年になりました。

2月下旬に昭和31年から昭和55年までの長きに渡ってサッカー部の顧問・監督をつとめら

れた畑山明先生が逝去されました(享年84歳)。また7月には畑山先生の教育大サッカー部後輩で昭和40年に若くして千葉高校に赴任され二人体制でご指導いただいた青木克己先生が他界されました(享年77歳)。お二方は高校のみならず千葉県サッカー界の発展に尽力され、千葉県サッカー協会の副会長、会長などの要職をお勤めになりました。お二方とも教え子の会合にはいつもお元気で参加され、卒業後も長くお付き合いが続いた恩師の方々でした。

このOB会欄でも何度も取り上げていますように、サッカー部OB会は毎年正月2日に定例会が設定されていて、その歴史は半世紀以上も続いています。小生の記憶では、畑山先生はこの定例新年会に一度も欠席することなく出席されておられました。毎年お元気な姿に接し「生活の中にサッカーを」のモットーをお聞きするのが恒例になっていました。

平成31年、この正月の定例OB会には、現サッカー部顧問・監督の藤原明夫先生の呼びかけで、歴代の顧問・監督の

先生がた4名を含む70数名のOB・OGが参加、それぞれの現役時代を振り返り、お二方を偲んでご冥福をお祈りするとともに、新たな千葉高サッカー部の歴史を刻む懇親OB会となりました。(写真は歴代顧問・監督の先生方。右側より藤原、中臺(梶原)、川崎、石垣の各先生)

☆野球部OB会

OB会会長 嶋田政明
(昭和49年卒)

野球部OB会の昨年度の活動ですが、例年は新年会から始まるのですが、一昨年に百二十周年記念式典を行ったので「間を空けよう」と2月24日(土)に東天紅で行いました。また久しぶりの企画で1月27日(土)にマネージャーだけの飲み会を行いました。大阪から駆けつけてくれたOGもいて、視点の変わった裏話で盛り上がりました。

3月21日(水祝)予餞会(3年生を送る会&OB会入会式)5月6日(日)昭和52年に始まった千葉商業高校との定期戦で今年は現役戦、OB戦ともに敗れてしまいました。オールドファンの方たちによると商業さんとの

試合は「千葉の早慶戦」と言われ、レベルの高い試合を繰り広げていたそうで両校のこれからの活躍を期待したいものです。

8月12日(日)OB野球大会(30校加盟)があり千葉敬愛高校との試合で初戦負けでしたが「最多参加人数賞」の特賞をいただきました。その日午後から場所を千葉高のグラウンドに移して世代別対抗戦(奇数学年対偶数学年)を行いました。

11月19日(金)「野球部OBの東京葛城会」毎年、昭和58年卒の八十河君が幹事をしてくれていて、東京で働くOBで飲み会をということで18世代37名の参加で昔話に花を咲かせました。



学年短信

●昭和22年卒

斎藤 喜久三

【卒寿元氣一杯】

毎年の合言葉「雨が降っても槍が降っても」6月第一土曜日、今年は卒寿を記念した改訂版写真集を発行し、52回目を西千葉みどりで開催、12名とほぼ昨年と同じメンバーであった。この日を持ち焦がれた諸兄は、寫眞の通りすこぶる元氣滂刺、これには驚いた。卒業してから72年も経つと、同期会は年毎に益々楽しくなっているものである。



取りわけ後輩諸兄姉が不思議？に思ふかも知れない事が。

一つは71年前に戦後、中等野球(現高校野球甲子園予選)第一回が復活して、母校はダブルヘッダーでベスト7になった。少々不思議？かな。8なら判るけど参加校が14チームだったから。この順位は今後も二度とない記録で我が年度のこと。今夏の大会で現役諸君にベストセブンと胸を張ったところ、凄いと云ったけど、ちよつと変ですよと。現今の試合では合点がいけない様で年代の経過を改めて知らされた。

いま一つは同期会100%出席の豪傑2名。諸兄姉は講堂前にある、戦後第一回のヘルシンキ・オリンピックで金メダルの石井庄八先輩の顕彰碑をご存知だろうか。我が同期には、当時石井先輩の二年後輩で愛弟子の川島、秋山両君がいる。文字通り会のけん引力となっている。寫眞の通り「元氣印」、2回目を



迎える東京オリンピックにも参加しよう、先立たれた友の分まで参加しようとの励ましの発破があつて、開会した。

どうぞ後輩諸兄姉には、我等以上の元氣を持つて、人生100歳と云われるこれから、何よりも健康に留意して益々同期会を数多く開催し、盛んにされん事を念願してやみません。

●昭和25年卒

矢島 肇

「我が友わが青春」を合言葉に63年間続けてきましたが平成25年を最後とし会を閉じました。

いろいろな事がありました。スタート登録メンバーは306名、現在(平成30年10月末)判明している限りでは、逝去者131名(42%)生存者中行方不明29名を除いて生存者は146名(48%)となっています。が、いざ健常者となると約半数、計報は増すばかり、年齢から致し方ないと思います。

生存者全ての意見ではありませんが、集まれば病氣の話ばかり、楽しくもない話ばかりですが盛り上がりがあります。これも物故者への思い出話、そして生きている証の確認で決して暗い

話ではありません。同期近況。

●昭和26年卒

久山 敬

隔年で開催して来た同期会もだんだんと出席できる人数が減少し、今年は何人来てくれるかと心配しておりましたが、10月29日、32名が千葉駅ビルのペリ



昭和26年同期会 2018年10月20日

エホールに集まりました。94才になられた早川先生にも御臨席いただき、「長く生きていれば良いこともある」と激励を受けました。高齢になつて来ると、家族以外の人と接する機会も減り、「居場所」がなくなつて来ることを考えると、同期会で集まつて思い出話で盛り上がるのも大変結構なことだと思います。2年後には米寿で開催できればと、考えております。

●昭和27年卒 葛城二七会・三水会合同忘年会

發起人代表 明智克夫

葛城二七会の中村作二会長が率いる昭和27年卒業の同級会で、終戦の翌年(昭和21年)に千葉中今年的学校最後の入学生となり、23年に高校1年にスライドし、27年3月の卒業まで6年間葛城台で勉学を共にした仲間です。

それだけに他の学年より結束力が強いのが自慢で、長年にわたつて隔年開催の葛城二七会総会を続け、常に100名を超える仲間が参集していま



二七会忘年会 2018年忘年会

した。平成30年の3月1日が丁度卒業66周年記念日に当り、これを記念して最後の葛城二七会総会を開催したところです。また、我々二七会は卒業30周年記念に際し校章を寄贈し、今なお校舎の正面に燦然と輝いています。

平成23年にこれまで長年続いてきた「四季の会」を継承し、「三水会」をスタートして毎月第三水曜日に10数名の仲間と懇親会を続けており、時々、早川俊一先生をお招きして健康で長寿の秘訣などを拝聴しております。

二七会総会がなくなり、淋しいという声もあり、年に一度、元氣な仲間が集まって懇親会を開催しようというようほうに比べ、標記の忘年会を開催致すことになりました。昨年は38名、今回は45名の仲間が集まり、同級生の故木村徳次郎君の奥さんが経営する焼肉店「百母灯」で早川先生を囲んで和やかな忘年会を開催したところです。今回、生存者230名のうち近県在住者135名に案内状を送付したところ、出席者45名、欠席の連絡者が75名、その大半は体調不良または家族のケアのためという理由が多く、寄る年波でやむを得ないことだと思えます。今年は6名の同級生が残念ながら鬼籍の人となり、故人のご冥福を祷って黙

とうを捧げ、開会したところで

昨年の日本人の平均寿命は81・09歳で世界第三位とのことですが、私たちは85歳となり、今なお大勢の元氣な仲間恵まれています。我々の幼少期は食糧事情が極めて悪く、こんなに

長生きできるとは誰も考えていませんでした。早川先生はあと5年頑張つて100歳を目指すという意気だ健健です。我々も先生に倣って互いに励まし合い頑張つて参りたいと思います。

来年の忘年会は、お互いに声掛けして、更に参加者を増やしたいと考えております。最後に集合写真撮影、校歌斉唱、深澤規夫君の音頭で三三七拍子の手拍子をもって、参会者一同の健勝と千葉高校の栄光を祈念し散会しました。

●昭和28年卒

日暮正信

【筋肉と脂肪】

昨年の二八会は4月8日に開催されました。恩師、早川先生も出席です。ただ、今回は32名と参加者が減り、少し寂しかったです。先生は転ばぬ先のス

テッキで登場ですが、同期にも「杖が頼り」の出席者が数名います。筋肉の衰えで膝の関節を支えられず、「痛くて歩けない」「体重を支えられない」と言います。

先日人間ドックで胴回りが太った割には体重は増えていないようですが・・・と、伺ったところ、「筋肉と脂肪の比重はかなりの差がある」との説明。調べてみると、「リットル当たり200gの差」とあります。確かに、堅太りの山岳部・K君の体型と我々の体型を比較すると筋肉と脂肪の差が良く分かります。体脂肪、内臓肥満などの注意事項が見え隠れします。卒業後65年も過ぎると日常の食事バランス、運動の内容が直ちに健康につながります。

●昭和29年卒 福の会

中村浩紹

傘寿を超えても元気で集ろうとの掛け声で、福の会総会は、30年6月16日、午後0時30分より、京成ホテル・ミラマーレにて開催、40名が出席した。

体調不良やケアハウス入居などの仲間が顔を出せないとの連絡が多くなってきたが、名古屋

から石黒君も常連参加である。

近況、思い出などの歓談が弾み、二次会は、同ホテル別室に移り、それぞれが十八番のカラオケに興じ、5時近くまで青春時代を謳歌した一日であった。

恒例の忘年会は、12月20日、東武レパントホテル東京（錦糸町）で開催する。

平成31年（元号不明）の福の会は、6月22日（土）、京成ホテル・ミラマーレにて開催予定。

福の会世話人・事務局を永年担ってくれた赤木快男君の訃報（10月3日）が寂しい。ご冥福を祈る。

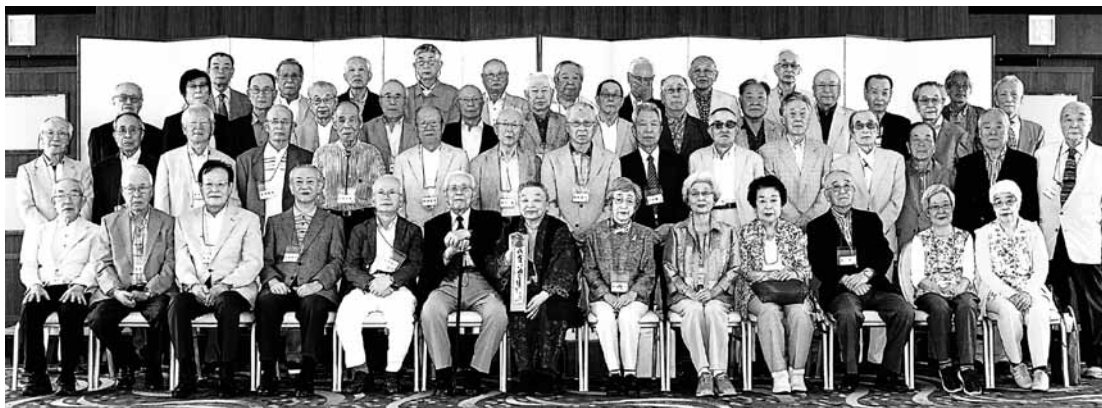
●昭和30年卒 三十年会

倉大塚正明

平成30年度総会・懇親会は、6月2日京成ホテル・ミラマーレで開かれ、55人が参加しました。94歳になられた早川俊一先生がお見えになり、「歳をとつたら若いときのことは忘れて



講演する文化勲章受章の三谷太一郎氏



三十年会総会 2018年6月2日

無理をしないこと」と、ひと回り下の私たちを励ましてくれました。さらに、「私と握手すると、あと10年は生きられるぞ」と話されたため、先を競って握手し

ていただきました。

総会では、開校以来初めて文化勲章を受章した三谷太一郎君が、「日本における市民の司法参加の歴史」について講話しま

したが、陪審員制度のあらましをわかりやすく解説した内容。この種のアカデミックな話はこれまでの総会では聞いたことがなく、皆さん「高校生に戻ったような気分」と好評でした。

また、千葉葛城会総会でもらってきた「忘れかけた母校に伝わる歌を高らかに歌う会編」をもとに、三十年会だけの特別編として「母校に伝わる歌唱集」をつくり、ピアノ演奏をCDにして出席者と、欠席者のうち返信のあった会員にも配りました。さらに、「三十



2018.10.24

年会報」の第4号は、4頁に増やして三谷君ら11人が「私の挑戦、私の日々」をテーマに、若々しい文章を寄せてくれました。懇親会の最後に、田中政彦君のハーモニカ伴奏で、校歌を合唱、懐かしいひと時を過ごしました。

●昭和31年卒(三二会)

山中 齊

共に葛城台上で過ごした吾ら三二会の仲間たちが、喜寿を迎え、喜寿を祝ったのが平成27年だった。それから、あつという間に三年の歳月が過ぎ去り、今年、傘寿を向かえた。

「傘寿のお祝いはきつとやろう!」というのが3年前の約束だったことから、幹事相はかつて、平成30年5月25日、ホテルポルトプラザを会場に「千葉一高三一会会員の傘寿を祝う会」を催した。

集まった仲間は各地から62名、ありがたいことに、超多忙な同窓会長鈴木一郎先生が来賓として出席され、祝辞を賜り「こ

千葉一高三一会員の傘寿を祝う会



こに集う皆さんの若々しいエネルギーを拝見していると、きつとこの会は、皆さんが米寿になるまで続くと確信する。」と激励してくださった。

全員で集うのはこれが最後という思いからか、参加者一同、エネルギーに、飲み、語り、

歌う2時間だった。

締めは、いつも通り、我らのエンターティナー、今なお現役で活躍している徳永君のアカordeiオン伴奏で、声高らかに「校歌」「戦歌」を合唱し、名残は尽きぬが閉会となった。

なお今後は、定期的に毎年★3月1日午前11時～★ホテルポルトプラザにて三二会を開催することとした。幹事一同、会員各位の参加を待っている。

●昭和36年卒

代表幹事 田那村 宏

平成30年の同期会のメインは、節目を迎える「満77歳(喜寿)記念同期会を10月20日(日)、前回と同じ「ホテルプラザ菜の花」で開催すると、8月4日の同期クラス幹事会で決まりました。

後期高齢者3年目、同期旧友によれば「後3(高3)」の年。人生100年時代、健康寿命も延び、80歳で傘寿記念同窓会が開けることも夢で無いと思っていました。

しかし、同期会直前の9月、石井俊昭氏の訃報が届きました。彼は40年間、クラス幹事会の気配り抜群の纏め役として尽力されました。感謝・無念・合

掌。お通夜・葬儀には幹事中心に同期10数名で弔問しました。「我が人生に悔い無し」のエンディングでのお別れでした。母校同窓会の諸先輩も臨席されました。

県経済発展に尽くされた旧友、千葉商工会議所主催の「故石井俊昭会頭 お別れの会」は11月23日、幕張メッセ国際会議場に献花の長い列が続きました。

気を取り直し、「喜寿記念同窓会」で、旧交を温めましょう。多くのご出席をお願いします。

●昭和39年(定) 卒

三井 芳夫

「最後の二人まで」

平成30年同期会は、10月20日、千葉そごう10F美々卯で13名の出席です。会場都合で少し早めの、午前11時半のスタートです。10月は地域の行事が多く、返信には、残念欠席、来年よろしくが多くて、月を変えます。10月は年金の支給月でこれが間違いでした。

今回は、以前からの沢山の資料、西村先生を囲む会、葛の花総会、35年遅れの修学旅

行、同期会、そして27年ほど前の『はらーど』という雑誌に特集で、わが青春の思い出、千葉高校が載っていましたのでそのコピー、西村先生監修の『定時制のあゆみ』等々、30枚位の資料が出席の方へのお土産です。

同窓会の考え方ですが、私は又出たい、次回もよろしく、少しの時間で、二次会だけでも、それで充分です。「最後の2人まで」です。三井がその2人になれるか判りません。少し疲れてますから。

定時制の皆さんへ。千葉高校、校内図書館前の桜が記念樹です。10年前は50センチの苗木でした。今年(平成30年)2月20日に所用で千葉高に伺った折には



白い花でしたが、24日に撮影した時にはピンクでした。きつと内気なんでしょう。

●昭和40年卒



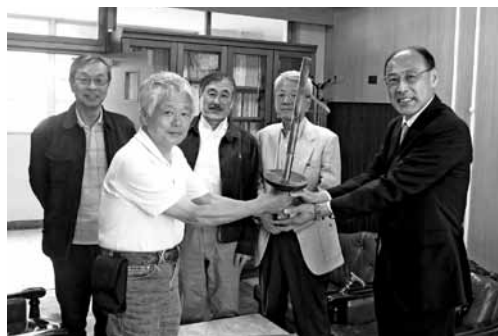
昭和40年卒同期会 最多は16名参加、浅野康夫君のE組

幹事 椎名栄一

昭和40年卒業の同期会が11月11日、J R千葉駅ビル内の「ペリエホール」で開かれた。3年ぶりである。93人が出席したが、還暦を迎えた60歳以降90人台の出席を維持している。卒業して50年余。古稀を過ぎ、ほとんどが第一線を離れたが、まだ自営業など現役の人もいる。その中で建築設計士として六本木にビルを建てまもなく竣工という人や、65歳を過ぎてからマラソンを始めたという人の紹介があり拍手を浴びた。

【千葉高聖火ランナーは2名】

私たちは、昭和39年の東京五輪が開催された時に高校3年生だった。その年、聖火が千葉市



富永君のトーチ、母校に寄贈
陸上部同期3名も同席

内を走ったが、聖火ランナーは私が所属する陸上部の1年先輩の松木忠良さんが務めた。松木さんは前年の千葉県大会100mと200mの覇者で当時浪人だったが、高校の代表としてランナーに選ばれた。ところがある1人ランナーがいた。同級生、同じ陸上部の富永明彦君でこちらは千葉市内の代表として選ばれていた。彼は牧師として米国に住んでいるが、半世紀たつて聖火トーチを母校に寄贈することになり、この4月に校長室で贈呈式が行われた。聖火は中継点の千葉市役所前で松木さんから富永君に引き継がれた。聖火ランナーを千葉高から2人出したわけだ。同期会でこのエピソードを披露したが、富永君は欠席だった。2度目の東京五輪は2年後の2020年にあるが、それまでお互い元気でいようと誓い合い散会した。

●昭和40年(定) 卒

OSB会幹事長 谷中勝美

昭和36年入学した当時の1、2年の仲間で結成したクラス会「OSB会」を、今年も昨年と同様の長生郡白子町「ホテル白洋」にて



同期だから みな古稀

●昭和41年卒 幹事 中野哲夫



昭和41年卒同期会 二次会会場にて

一泊で6月17、18日に開催しました。6名の出席者でした。近況報告と遠い昔はなしに思いを馳せ、深夜まで語り合いました。写真は1名早く帰ったため、5名です。



OSB会

9月最終土曜日、会場は何時もお世話になっている「ポトブラザチバ」。開始時刻午後4時のだいぶ前から受付担当者をはじめ多数到着。準備万端のなか、参加者77人(女性16人)が集合し開会した。今回から幹事が交代し、ながらく会場を提供してくれていた「割烹早坂」当時のメンバーが幹事に再登場。テーブル配置も特に指定せず、お好みの場所に着席して貰いました。

旧交を温めながら、話題は健康面が主に。昨年まで参加していたのに今年は欠席の仲間を心配しつつ、来年は会えるといった。今回から葉書での連絡を止め、メールと電話での案内に。ただ、メールが届かなかった

人が複数いたので、来年は担当から電話対応させて貰う予定。飲み会、ゴルフ、旅行など様々な分会もあるので、それぞれの場面でお会いできるかな。

●昭和43年卒

伊藤 三平

昭和43年卒だけが教わった国語教師菊地久治先生の著述と思い出をまとめた『永遠の朗読劇場―菊地久治作品集と千葉高生―』(A5版440頁)が山折哲雄氏(東北大同期)の序文も頂いて刊行。編集作業では先生の心酔者2人の思いが強く難儀するも、その分、この2人の力で上梓できました。百部限定の非売品で千葉高の図書館等には寄贈します。先生が後に書かれた評論が江戸の異端文学(幕末歌舞伎、血みどろ絵、任侠、色道等)に関するものであり、強烈な思い出を残した朗読に魅了された者もいた反面、これらの匂いを感じて気持ちが悪く感じた者も多かったのが正直なところ。当時は16歳ですから。

11月18日に「卒業後五十年・古希(数え歳)」の同期会(通算9回)を開催。今回は各クラス幹事によるメールだけの連絡、会費

ホテルへの実費の8千円に設定したが102名の参加。前回の往復葉書の案内、余剰金を活用した会費5千円の時が107名ですから大差は無い。会費1万円の時も100名前後でしたから料金弾性値に無縁だ。なお9回目にして初めての出席者が4名おり、9回のどこかに参加した同期の延べ人数は235名となり、同期の50%を超えた。

●昭和44年卒

森 茂

『日々是好日』

第6回同期会が平成30年10月28日(日)に、京成ホテルミラマールで開催されました。参加116名。少し長めにセットされた3時間でしたが、あつという間に時は過ぎ、「校歌斉唱」で中締めとなりました。嬉しいのは、今回も初めて参加する人が2・3人いたこと。65歳を過ぎ、ようやくふるさとに帰帰できる時を得たのかも知れません。

私は、同じ10月に茶道をタテ糸に使った映画『日々是好日』(樹木希林と黒木華が出演)を観たばかりでしたので、日々を大切に生きてゆくこと、同期生逝去の報を聞くと「一期一会」という言

葉を思うこと、それにつけても今日のひとときを大切に楽しく過ごしてほしいこと、などと述べて、乾杯の挨拶代わりにしました。懇談の中で、茶道を習っているという女性から「私は朝一番に、今日という日を下さり有り難う!と唱える。そうすると、一日中何に対しても感謝の気持ち湧いてくる。」と聞き、本当にそうだなと頷いたのです。

「毎日、今日があなたの最後の日だと思え。毎日、今日があなたの最初の日だと思え。」タルムード※私たちの学年、次回同期会は、2020年10月25日(日)です。オリ・パラの年! 私たちが「古稀」を迎える年。皆さんお元気で!

●昭和45年卒

徳村 万貫夫

平成24年以来、6年ぶりとなる同期会を開催しました。メールや電話を中心に連絡をとり、ハガキを補助的な手段に準備を進め、恩師1名と同期生80名が集まりました。事前にホテル側に渡した卒業アルバムをもとに、当時の写真が拡大して壁に貼られており、感嘆の声をあげる姿が見られました。

クラスごとの記念撮影の後に乾杯。発声は「最も遠くから参加の人」ということで、何とタイのバンコクから駆け付けたKさんに依頼。卒業年のクラスで円卓に着席、途中から席を離れあちこちの方と懇親、66歳を過ぎ一段落したのか、卒業以来初めての方もそれなりに居たような。二言三言話ただけで当時の姿にフラッシュバック、懐かしいあの頃のこと、今の日々の生活など話に花が咲きました。

ところで、同期会などでも感じるのは、人間の記憶していることと人皆それぞれということ。「えっ俺、そんなこと話したの？」自分では全く記憶していないことを言われて、改めて驚いたりすることもある。

そんなこんなで3時間もあっという間。同期の元気な姿をみるとなにより嬉しいし、励みになります。校歌斉唱と三本締め締め、平成の次の時代に皆さん、また元気な姿でお会いしましょうと再会を約しました。

●昭和47年卒

幹事 古阪 徹
ふるさか とおる

【健康寿命】

平成30年10月27日土曜日、同

期会は、12回にして初めて千葉を離れ、銀座6丁目で開催された。20級先輩・恩師渡辺誠治先生を迎え、新『高齢者』集団となる60名の参加。千葉とは異なるメンバーを多数迎えたのは開催場所の違いでもあろう。

平成最後の同期会は物故者20名への黙祷から始まった。天井が低く友人との距離が近い会場で、『企画』を設けず会話を楽しみ友好を深める会は、映画プロデューサーの名企画である。

新高齢者年代の話題の中心は病氣、特に『がん』である。2人に1人が罹患し、オリンピック開催年には死因の半分が『がん』という時代。身近な疾患となったが、やはり特殊な病氣である。自己から出てきた非自己で、不死身なこの細胞に打ち勝つには、『消しきるか』『取りきるか』しかない。いずれも外的な力ではなく根治は無い病である。現在、多くの病氣が遺伝子の影響を受けていることが判明しているが、公開されているのは一部の疾患のみである。このような状況では、DNAを傷つけない生活をする、早期発見を心がけることが寿命延長には肝要である。そして、健康維持には大腿の豊富な筋肉量が重要である。

●昭和49年卒

横川 明雄

私たちの年代は、まだ若いのか、もう年寄りなのか、狭間世代だと思えます。芸能界でいうと、新御三家の郷ひろみ、西城秀樹、野口五郎と同学年です。同期の仲間は昔からバラバラのよう

でまとまりがよく、年に1回程度行う同窓会の他にも、卒業した翌年から毎年欠かさず1月2月に集まる新年会、ダメオスゴルフコンペ、不定期の飲み会、麻雀と顔を合わせる機会が結構多くあります。そんな仲間が高校時代はどんな人間だったのか振り返ることにします。私たちの学年は個性あふれる人間が多く、面白いことがたくさんありました。全盛期のベ・ヨンジュンを彷彿とさせる容姿で、女子からモテモテだったM松君。女とみれば誰かれお構いなく声をかけ、振られても常

に前向きだったU原君。井上陽水ばりの美声で歌を披露していたH田君と、いつも風邪ひききたいなかつた声だったM起君。タバコを吸っているところを先生に見つかり、何が悪いと逆に食っ



昭和49年卒同窓会

てかかっていたT村君。父親への反発から家を出していたKK路君。身体能力の高さを見せつけるべく、列車の連結部の外側につかまっているところを駅員に見つかり、列車を緊急停車させてしまったT島君。夜行軍と称し、夜中にクラスメイトを集めて、夜通し友人の家を訪ね歩いた行動力溢れるS田君。大人顔負けの知識の宝庫だったN野君、等々きりがありません。

そんな楽しい仲間と会って、高校時代の思い出話に花を咲かせようと楽しみにしています。

●昭和50年卒

園部 創

千葉高同窓会報を見るたびに、喜寿、傘寿、米寿を迎えられた先輩方の元気な姿と活動ぶりを拝見して、圧倒されてしまう。果たして自分もそのように長く人生を楽しむことができるのだろうか。62歳になって、大半がサラリーマンだった我が学年の面々は、60歳の節目で一度仕事を卒業し、別の仕事に就いたり、そのまま延長で仕事を継続したりと、少なくとも前期高齢者となる65歳までは何かしら働くことになった者が多い。勿論、事

業をやっていたり医療や教育関係にいた同期はまだまだ現役で、引退の文字はずっと先だ。我々が社会人になった頃は55歳が定年で、55歳以上は老人という感覚だった。今は65歳以上にならないと高齢者と呼ばれないし、62歳の我々にとってシルバーストではっとため息をつくことができるようになるのには、あと3年待たなければならぬのだ。今後をどう生きるか、まだ直視できていない。同期同窓会は65歳の年に開催する予定だが、最近では食事会や飲み会、麻雀会、ゴルフ会、バス旅行会など、ミニ同窓会が活発に開催されているようだ。今は、あまり先のことを考えずに、残された時間を千葉高仲間と昔を懐かしみながら楽しく過ごすことでしょうかと、思っている。

●昭和54年卒

池田知行

平成30年1月3日(水)、今回も京成ホテルミラマールにて昭和54年卒業同期の新年会・懇親会が開催されました。平成29年8月の「山の日」に「夏の同期会」を開催したこともあってか、今回の出席者は40名程度とやや少

ない人数での開催となりました。また、55歳を過ぎてくると、親の介護その他で家を出づらいつつも、もろの要因があるのかもしれない。いずれにしても、平成27年の正月に何となく始まった同期会も、今回で5回目とな



りました。

当日は、準備してあった筈の名札が印刷されてないといったハプニングもありましたが、急遽、各人手書きで作成し事なきを得ました。今回新たに参加した方も含め、以前からの顔見知りとは勿論、初めて会話する人ともすぐに打ち解けて、千葉中央駅の鍛冶屋文蔵での二次会にも一次会参加者のほぼ全員が出席するなど、大いに盛り上がりました。クラス別の出席者数はA・B・Gの各組が8名、D・Fが6名だった一方、ゼロの組もあって、やや偏りがあるようにも見受けられますので、同窓会幹事に備えて、ネットワークのさらなる拡充と組織化を図ってきたいところです。

●平成18年卒

戸澤庸子

「高校時代が人生で一番よかった」こんな言葉が脳裏をよぎったことに動揺した。高校時代が素晴らしかったことは事実だ。しかしそれを「人生で一番」と形容することは、今現在を充実させる努力を自分が怠っていることを意味するのだ。

なぜ高校時代が輝いて見える

のか。その理由の一つは、毎日が新しいことへの挑戦だったからだと思う。地学を超えた森谷先生の課題に、登場人物の心の深淵まで覗く白石先生の現代文。毎回が演説の藤井先生の政治経済に、菅井先生の物理レポート地獄。部活動や受験勉強との両立の難しさに音を上げながら、仲間とこなしていたのを思い出す。

何かに挑戦さえすれば、今の時間も高校時代のように、高校時代以上に輝かすことができはるはずなのだ。それはきっと、課題に朱筆を入れ続けてくれた先生方が、私たちに望む姿勢なのだろう。

平成18年卒の私たちも今や31歳。時には無力感に襲われることや、全てを投げ出したくなる瞬間もある。それでも何かに挑みつづけられることを、私は幸せと呼びたいと思う。

●平成28年卒

第68期同窓会長 小池美菜子

68期生第一回同窓会から早一年が経とうとしています。同窓会を経て、同級生のみんなと会う機会が格段に多くなりました。周りの友達を見ても、頻繁に会うようになり、とても充実して

いる様子が伺えます。2019年には全体で集まる予定はありませんが、連絡を頻繁に取り、今後の同窓会がスムーズに進むようにしています。今回の同窓会は10年後ということで進めていますが、多くの同窓生から5年後も開催してほしいという言葉をもらっているのが同窓生みんなが社会人になって落ち着いてくる頃に再び開催したいと考えています。その頃には様々な職に付き、家庭を持っている人がいたり、様々な人生を歩み始めているみんなと再び会えることがとても楽しみです。

今年で68期生は全員が成人になりました。高校生のころからあこがれ続けていた、みんなでお酒を飲むということも実現する歳になりました。先生方を含め、呑みながら更に話が弾む会を開くのがとても楽しみです。次回同窓会は、まだまだ先のことでありますが、5年後に再会するときに自信を持って、みんなと会えるように就職活動・大学生活等、夢に向かって進んでいきたいと思っています。次回も沢山の方が集まっていただけのことを楽しみにしております。



●平成29年卒

成人記念第1回同期会

第69期同窓会長 高村 美月

平成31年1月12日(土)、ホテルプラザ葉の花にて、卒業第1回同期会を開催しました。

この度は、このような素晴らしい会を開いていただき、69期生一同心より感謝申し上げます。この場をお借りしまして、阿佐事務局長をはじめとする千葉高の先輩方、そして会の運営に関わっていただいた全ての方々に厚く御礼申し上げます。

今回の同期会では、同窓会役員の皆様7名・現校長先生をはじめとする恩師12名・同期



248名の合計267名の方に参加していただき、とても大規模な会になりました。卒業から2年が経とうとしています。それぞれが自





分で選択した道に進み、新しい世界を見たり、新しいことに取り組んだり、とても新鮮な2年間だったと思います。その間に定期的に会っていた人もいましたが、この同期会にて卒業以来の再会となる人もおり、同期会前はちょっとした緊張と楽しみが入り混ざった気持ちでいました。しかし、いざ会ってみると一瞬で打ち解けることができ、楽しかった高校時代に戻ったかのようでした。気が置けない仲間と高校の頃の思い出話や今の生活の話、未来の話に花を咲かせていました。



この同期会では、69期生の絆が深まり、新たな繋がりが生まれたり、とても充実した会になりました。今後にきちんと繋がる、素敵な機会になったと思います。

今回の同期会の開催は、私たちが30歳を迎える10年後を予定しています。そのときに私たちがどう変わっているか全く想像が付きませんが、何はともあれ、この最高の仲間とまたみんなで集まることが今からとても楽しみです。「もっと頻繁に集まりたい」と言ってくれた同期もおり、とても嬉しかったです。とりあえず10年後。みんなどんな大人になっているのかな。

これから先も、千葉高での仲間を一生大事にしたい、そう強く思わせてくれる同期会でした。本当にありがとうございました。

千葉高校図書館よりのお願い



『千葉高校新聞』創刊号(昭和23年11月1日)

『千葉高校新聞』を探しています

先ごろ、ある同窓生から「自宅を整理していたら、こんなものが出てきた」と、『千葉高校新聞』『千葉一高新聞』をご寄贈いただきました。創刊は昭和23年で、以後、昭和40年代途中まで年に1〜2回のペースで発行されていたようです。編集発行は「千葉高等学校新聞班」となっています。いただいた新聞は現在図書館で大切に保管していますが、以前から図書館に保管されていた

【会報送付希望の方へ】

同窓会報は総会などでの配布が主でしたが、卒業生と母校の共通の話題とできるよう、お送りすることにいたしました。ご希望の方は、同窓会に氏名・卒業年・ご住所をご連絡ください。

千葉高同窓会事務局

〒260-0853 千葉市中央区葛城 1-5-2 県立千葉高校内

☎043-239-5550 FAX.043-239-5551

E-mailとホームページのアドレスは各ページ下に記載

● 個別送付のご寄付は下記宛てにお願いします。

ゆうちょ銀行 00140-6-336678

加入者名 千葉県立千葉高等学校同窓会

たものとあわせても、次の号が欠けています。該当する号をお持ちの方で、寄贈いただけた方がいらつしやいましたら、学校までご連絡いただけると幸いです。

【欠けている号】

第26号(昭和29年)、第52号(昭和38年)、第59号(昭和40年)このほかの号についても、寄贈いただける場合はご連絡ください。

【連絡先】 県立千葉高等学校 同窓会報担当

地歴公民科・能勢 智

英語科・田中航祐

弓道部 インターハイ・男子 団体戦第6位

弓道部は「東海高校総体インターハイ2018」(第63回全国高等学校弓道大会・静岡県)に出場し、第6位の成績をおさめました。

8月3日の予選(立射)では出場48校中第2位(的中17)の成績で決勝トーナメントに進出、翌4日の1回戦では南陽工業高校(山口)を、2回戦では高知東工業高校(高知)を、それぞれ撃破。8月5日の決勝トーナメント準々決勝では、強豪市立前橋高校(群馬)を相手に互角の戦いを繰り上げましたが、11-13(坐射)の僅差で敗れました。団体メンバーからの感想です。

2年 鈴木 禎輝

インターハイは3年生にとつて集大成の場、自分が足を引っ張ることがないように全射中てることを目標に大会に臨みました。内容としては先輩方が一本目から中ててくださったこともあり、流れに乗って練習以上の射ができたと思います。全国で6位というのは大変嬉しいことですが、優勝にはとどかなかったので偉

大な先輩方を超え、来年こそは優勝することを年間の目標としてこの先の練習に励んでいきます。

2年 齋藤 一真

全国という大きな舞台で弓を引き、この上なく貴重な経験をすることができました。最初は他の選手たちの風格に圧倒されましたが、徐々に大会の雰囲気にも慣れてよい緊張感の中で練習できました。そして、弓道でしか味わえないような楽しさを感じました。これからもこの経験を糧に人を楽しませられるような弓を引いていきたいと思

3年 金田 直大

最初は、大会の雰囲気や強豪校を間近に見るなど何もかもが新鮮に感じられました。そんな中で、自分たちの実力がどこまで通用するのかという好奇心が生まれ、それは予選・トーナメントで駒を進めていくごとに強くなり、大会を本当に「楽しい」と感じられました。協力・応援

をしてくださった人たちには感謝しかないです、ありがとうございます。

3年 石井 尚輝

最初で最後の全国大会。良いことも悪いこともすべて吸収し、一日一日弓道を通して成長していくという気持ちで臨みました。団体メンバーには競技中だけでなく練習から多くの場面で助けられ、自分一人では経験できなかった大舞台を楽しむことができました。短い高校生活で弓と真剣に向かいあってきた仲間とともに、最高の形で二年半の弓道生活を締めくくれたと思っています。

3年 藤田 泰輔

今回の大会は私たちの代の男子最上位大会、しかも全国という大舞台でした。緊張や焦りもありましたが、大会本番は自分自身の2年半の努力を信じて、チーム一丸となって楽しく弓を引けたと思います。一日中練習をみていただいた顧問の先生方(特に古味先生)や同じ弓道部の仲間、朝早くに

弁当を用意してくれた母親など、支えていただいた方々に感謝の気持ちで一杯です。

3年 茂久田 洪

インターハイで団体6位入賞をすることができました。2年半、楽しいと感じる時、つらく感じる時など様々でしたが、顧問の先生のご指導、部員や先輩方、周りの人たちの応援のおかげで団体メンバー全員が自分の力を出し切って試合を終えることができました。そしてこういった形で最後に結果を残すことができて、本当によかったです。



葛城人脈 ④

角田陽一郎さん (平成元年卒) 加藤昌治さん (平成12年卒)

千葉高が創立されて140余年。葛城台から数多の卒業生が巣立っていったが、この「葛城人脈」では、今まさに活躍している卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流に迫る。今回は、高校時代からの親友二人の物語である。聞き手は東寿浩(平成12年卒)

知的にふざけまくる！

— まず、お二人の出会いはいは？

加藤昌治(以下、加藤) 強歩大会だっけ？

角田陽一郎(以下、角田) いやいや、ラグビー部でしょ。僕は運動が苦手で、すぐに挫折しちゃったけどね。ただ、その時はあまり意識していませんでした。

加藤 1年A組、3年A組で一緒だったんだよね。

— 2年間同じクラスですね。

角田 そう、1年生の3学期の期末試験のとき、偶然朝の電車と一緒に、マンガの『超人ロック』の話で盛り上がり、試験のあとに喫茶店で夜まで話したのが仲良くなったきっかけですね。2年生のとき、加藤くんが泊まりに行くと、本が多いのに驚きました。僕は当時、全然本を読んでなかったんだけど、それで本は読まなきゃいけないと思いました。あと、映画「私をスキーに連れてって」が流行ったので、高3くらいからスキーに行ったかな。

大学時代は毎冬行っていたよね。

加藤 行っていた。飽きもせず。

— ええ？ 受験シーズンですね？

角田 もちろん終わってからですよ(笑)。東大の受験結果の送付先を宿泊先にして、何気にか受かる気でいたから、不合格の結果を見て、ショックで途中で帰りました(笑)。

加藤 現役で受かるつもりあったんだ？ 高校に入ったとき「ここは4年制高校です」って言われた記憶あるな(笑)。

角田 スキーに行くとき、くだらない遊びをするんですよ。誰が一番早くゲレンデに着くかの競争をしたりして、その競争を早出、略してHDとか言ったり(笑)。こういうくだらないことを考えていたから、僕はTBSでバラエティを作ることができたと思っているからです。「さんまのからくりTV」とか「金スマ」とか。くだらないことにちよつと知的遊戯をいれようって。

思い出に残った先生方

— なるほど(笑)。普段の高校生活

はどうでしたか？

角田 高1のとき、現代文で「羅生門」を坂本和敬先生に教わって、下人の行動一つについて、「どう思いますか？」って聞かれて、翌週もそれなの。次の時間もそれで、一ヶ月くらい続くの(笑)。これどうやって試験やるのかなって思っていたら、中間試験は一文、「思うところを述べよ」だけ(笑)。すげえな、この学校！って思いました。

加藤 「どう思いますか？」って言われても、みんな高1の1学期だから、当たり障り無いことを言うじゃないですか？で、答えると「そうですか？」って10分くらいずっと校庭を見ていて、「俺ら今やバいこと言った？」ってなっちゃって。その時、現国が週3回あったんだけど、1行も進まなくて。「卒業まで羅生門終わらない」と本気で噂してました(笑)。それで、中間試験の現国の配点が40点で、平均点2点、うち名前点1点。何書いてもバツ！(笑)誰かが8点くらいとって、「お前すげえな！」ってなっていました。

角田 生物の加藤富士夫先生には、「今から教えるDNAの話は、大学院で教える話だから」って言われました。一番印象に残っているのは地理の近藤代先生で、僕が世界史と地理の本を出したのも、近藤先生の影響です。

加藤 一回俺モグリにいったよ。ここでは言えない●●なお授業でした……。

角田 板書も字が汚くてバーっと書くんだけど、すごく勉強になった。

加藤 そういふ先生たちには、相当な刺激を受けましたね。人格ってどこかで固まるじゃないですか、自分は明らかに高校だったなあ。

角田 高校だね！千葉高に行ってなかったらこうはなっていなかった。

加藤 あと物理の石井信也先生。物理の法則をルパン三世の例で話して「ルパンは不二子ちゃんが好きなんサ、だから追いかけるんサ」って。勉強はせず、先生の物まねばかりやってました。

角田 加藤くんずっと物まねやってて、こいつは面白い人だな、って思ったのが最初の印象。

加藤 それが今の仕事に繋がっているかな。PR上手は物まね上手、説だから。

— なるほど！面白い見方ですね。

角田 加藤くんは広告会社勤務じゃないですか？すごい広告っぽい人なんですよ。それが不思議なのは、高校時代から変わってないの。加藤 でも、僕は高校時代、地味目のキャラクターだったんですよ。

— そうだったんですか？

角田 そう、全然目立たなくて。でも、高校時代に目立つことって大して意味ないんじゃないかと思えます。あの頃が一番輝いていた、ではちよつと寂しいですよ。

大学時代の進路選択

— 大学時代はいかがでしたか？

加藤 僕は早稲田大学広告研究会に所属していました。学園祭イベントづくりで、夏休みの間はスポンサー探しで毎日電話して。それからイベントとか広告とか大嫌いになりました(笑)。

角田 僕は、2年生になってからずっと劇団やっていた。それで、演劇に近くて食べていけるテレビ局に就職しようと思ったんです。大学の同級生に森下佳子さんがいて、「直虎」や「ぎばむす」の脚本やっつて、すごく才能のある人です。駒場祭の文庫劇場で仲良くなったんだけど、リクルートを辞めて脚本書いているというので、金スマを手伝ってもらって、そこからブレイクしました。結局、つながりで仕事できるってそういうことだね。

— 加藤さんは広告嫌いだっただのになぜ博報堂に？

加藤 本当は商社志望。一方で博報堂にお世話になった先輩もいたのでOB訪問くらいしないと失礼だなと思って。面接のとき、「広告研究会にどつぷりつかってました。でも広告はあんまり好きじゃなくて、コピーライターはやりたくありません」ってぬけぬけと。で、「なんでキミうち来たの？」って言われて。そりゃそうだ(笑)。続けた広告会社への志望理由は「電車を通したいんです」。当時、東葉高速鉄道はまだ通ってなかったんですが、乗りたいわけですよ。それ、地主さ



写真左：角田さん 写真右：加藤さん

Profile

角田陽一郎 (かくた・よういちろう)

1970年生まれ。高校時代は帰宅部(ラグビー部を1年生夏で退部)。東京大学文学部西洋史学科卒業後、TBS入社。現在はフリーのバラエティプロデューサー。著書に『最速で身につく世界史』『運の技術』『13の未来地図』などがある。

加藤昌治 (かとう・まさはる)

1970年生まれ。高校時代はラグビー部に所属。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、博報堂入社。現在は同社PR戦略局勤務。著書に『考具』『チームで考えるアイデア会議』『アイデアはどこからやってくるのか』『発想法の使い方』などがある。

角田 もし数年後に小説を書けるなら、伊藤博文を書きたい。

加藤 突き詰めるのって怖いから、スルーして済ますことも多いわね。

角田 後、小説を書けるなら、伊藤博文を書きたい。

それぞれの道

角田 実は、加藤くんが『考具』を出したとき、さっさと会社を辞めると思ってた。

加藤 自分が目立ちたいというよりは、世の中の平均を上げたいなあ、と。スターではないからね。

角田 組織人じゃん！テレビのプロデューサーって自分の番組だけ

よければいいから、全然違うね。そういう意味では、別にTBSにいる必要もないかなって思った。

加藤 角田くんもテレビマンとしては大分変った。社内ベンチャーやった。

角田 そうね、でもオーナーという存在を意識したのは3:11かな。大学の時にユースホステルに泊まって、飲み会になった時にサラリーマンに「卒業したらなにやるの？」って言われて「テレビ局でエッチな番組作るんだ」って言ったら、「そんなふざけた仕事一生の仕事にしないのか！」って説教されたのよ。

加藤 ユースあるある(笑)

角田 で、23歳の角田青年は反論したんですよ。「戦争になったらいいじゃないといわれる仕事をつくること、真の文化を作るんだ」って。でも震災が起って、その翌々日にくだらないロケを企画してたら、

編成から「ロケを中止しろ、そんなことやってる場合じゃない」って言われちゃったんですよ。本当にいらないって言われてしまったときに、敗北感というか、挫折感を味わいました。これからどうする？戦うなり、逃げるなり、津波と対峙しようと思ったので、TVの中だけじゃなくて、外でもフリとオチを考えよう、と思ったのが独立のきっかけ。社内ベンチャーでも思うところがあつて、組織への従順性が無くなっちゃった。

加藤 それ、誰かを引き込みたいのか、自分で作りたいのか、皆が自由に作れる環境をプロデュースしたいのか、どっちの方向かねえ？

角田 結局僕の企画をプロデュースしてくれる人がいないので、自分でやったというだけ。でも僕は狂えないんだよね。劇的に作ることができない。TVでも「これじゃイジメじゃん！」という前で止めちゃう。それを越えちゃうのがすごく嫌。

加藤 突き詰めるのって怖いから、スルーして済ますことも多いわね。

角田 もし数年後に小説を書けるなら、伊藤博文を書きたい。

志に殉じないで、常にどうやれば生き延びるかを考えてる人物なんだよね。時代小説の主役になりにくいけど、今っぽいかなと。

加藤 本を出していてナンですが、影響受けました、人生変わりました！って言われるの正直怖い。変わらないで、そのままいてください、って。人は誰も、誰かに影響を与える仕事をしてるんだけど、どうもその居心地の悪さがある。

角田 だけど、全く相手にされないのも嫌で多少は反応してほしい。

加藤 面倒くさい人(笑)

——加藤さんがベストセラー『考具』を書かれたきっかけは何でしたか？

加藤 同じ職場にいたとある女子が僕の文章を気に入ってくれたらしく、出版エージェントを紹介してくれたの。そこで、「何を書きたいです？」って言われたものの、特に書きたいものもなく・・・その場がシーンと凍りつき、広告会社社員としては、こりゃいかん。何か返さなきゃと。その日の夜に目次作りました。でもタイトルも他人様から頂戴しましたしで、あれよあれよと流されていたらできた、という感じでした。

——やはり企画とタイトルの勝利でしょうか？

加藤 15年経った2018年に40刷になりました。一応中身もあるらしい(笑)。企画ってことでいうと、尊敬するデザイナーの川崎和男先生の言葉を引用させてもらっ

てます。アイデアはわがままでもいい、企画化には思いやりが必要。思いやりって、要は丸めることになるわけですが、みんな思いやりから始めちゃうんだよね。

角田 マーケティングとも言えるけど。

加藤 それはどうか？企画には「わがままなアイデア入り」と「ナシ」の2種類がある。どっちでもいいんだけど、もつとわがままがあつてもいいんじゃないかなあ。自分勝手なわがままはつぶれるけど、よいわがまま、つてそれが共有されればメンバーのわがまま、会社のわがまま、100万人のわがまま・・・に育っていく。なら、ポジティブにわがままから始まっていいじゃないですか。という考え方。

角田 その話初めて聞いた。でも、僕も同じようなことを考えていて、好きなことだけやって生きていくことを認めさせる一つの方法として、チャージングが必要だといおうせいこうさんが言っていて、そうだな、つて思う。それが本質的には思いやりなんだと思う。

加藤 わがままがセルフフィッシュで終わるか、理想像になるか、だね。高校時代はそれなりにわがままだったけど、別に退学になつてないし、ダメダメでもその後は何とかなつて。自由と書いてわがまま？と読む。そんな高校生活でよかったなあ、と思っています。

——ありがとうございます。

同窓会は、母校の社会人講演会に 講師派遣と支援をしています。

第1学年卒業生講演会

毎年6月、総合学習の時間にその年の同窓会総会を幹事学年として担当した卒業生が講演をしています。平成30年は6月5日に行いました。

講師 竹原教博氏(昭和51年卒)

演題 「インターネットビジネスの一端」～電子コミックめっちゃコミック～

第2学年卒業生講演会

―先輩に学ぶ―

各界で活躍する若手卒業生が自らの体験を踏まえ進学や就職など、進路選択について最新の情報を提供し、人材輩出という千葉高の伝統を保持発展につなげます。昨年は10月30日、

小松由佳氏(昭和63年卒)

サンデンホールディングス(株)海外人事部長

岡崎 真氏(平成元年卒)

岡崎歯科医院院長

松永正弘氏(平成元年卒)

(国研)森林研究・整備機構 森



林総合研究所研究者

・中川篤史氏(平成2年卒)

元都職員・陶芸家

・平林亮子氏(平成6年卒)

公認会計士・会社経営

・野村竜一氏(平成7年卒)

教育サービス関連の会社経営

・佐々木俊介氏(平成12年卒)

東芝デバイス&ストレージ(株) 研究開発職

・寶川絃司氏(平成13年卒)

飲食関係など会社経営

講演全体会の冒頭に企画・進行役の岡崎氏が主旨とプロフィールを紹介、続いて講師それぞれが

在校中・進学生・現職などを話し、自ら参加する生徒たちと熱心な分科会を行います。

■インターンシップ

1年生を対象にインターンシップにも事業協力しました。

「大学の先生による模擬授業」

にも協力。11月には柳原大氏(昭和57年卒)

運動の学習・記憶の神経機構と運動による脳の健康について講義実施。

◎中学校総合学習協力

社会人講演会に講師派遣

千葉中学校「社会人講演会」への講師派遣にも同窓会として支援しています。

葛城だより

◎平成30年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

瑞宝小綬章 嶋田 賢(昭30)

旭日双光章 霜 礼次郎(昭31)

瑞宝双光章 金親 肇(昭37)

旭日中綬章 佐久間勝彦(昭38)

瑞宝双光章 大野 敬三(昭40)

黄綬褒章 登玉 芳雄(昭44)

(敬称略・卒業年順)

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

鳥海 一郎(昭16) 30年5月13日

猪田昭三(昭20) 30年8月1日

山田俊雄(昭21) 29年12月26日

赤木快男(昭29) 30年10月3日

石井俊昭(昭36) 30年9月20日

(敬称略・卒業年順)

◎寄付者(同窓会宛)

心より御礼申し上げます。

●昭和51年卒同期会

(平成30年度総会・懇親会幹事年度)

380,000円

●土岐紘史様(昭35)

30,000円

●元榮川常様(昭40)

10,000円

●平成30年卒同期会

162円

(敬称略・順不同)

編集後記

◆同窓会報第48号をお届けします。今回もたくさんの方の寄稿ありがとうございました。毎号、同窓生のご活躍・ご健勝と強い絆を感じることが出来ます。

◆前号では、陸上部のインターハイ出場をご報告しましたが、今号では弓道部のインターハイ第6位をご報告でき、喜ばしく思っています。18頁に紹介をした「千葉高新聞」については、ご寄贈いただいたから、郷土研究部員がこれを読み、「昭和20年代の千葉高校の自治と校風」について、研究を行いました。現役生も日々健闘しています。今後ともよろしくお願いたします。

能勢 智(昭和54年卒)

◆今年度の4月から母校に赴任しました。時代に合わせて学校が色々と変わるのを感じる中で、同窓会の一員として千葉高の歴史を確認し、昔から変わらずに受け継がれ、今後も伝えていくべき伝統を見極め、母校の発展に尽力したいです。

田中航祐(平成20年卒)

題字揮毫 辻元大雲氏

本名・洋一 昭和37年卒